

# 昭和58年度通常総会記録

昭和58年度通常総会は、さる4月28日に開かれ、同時にOR学会賞の授与が行なわれました。以下に総会の議事録と、事業報告・計画、決算、予算をお知らせします。

## 昭和58年度通常総会議事録

1. 開催日時 昭和58年4月28日(木) 15時～17時
2. 場所 新宿パークホテル 渋谷区千駄ヶ谷5-27-9
3. 出席者 横山勝義他 787名(うち委任状による出席740名)ただし会員総数1986名(1/3は662名)

上記のとおり出席者が定款に定める定足数に達したので、定款第28条により横山会長が議長となり、議事録署名人に今野衛司、刀根 薫の両氏を選出して議事に入った。

### 第1号議案 昭和57年度事業報告の件

川野理事より別紙昭和57年度事業報告書にもとづき説明があり承認された。

### 第2号議案 昭和57年度決算報告の件

伏見理事より別紙昭和57年度決算報告書にもとづき説明があり、この報告に関し阿部監事より監査報告がなされ承認された。

### 第3号議案 昭和58年度事業計画の件

今野理事より別紙昭和58年度事業計画書について説明があり、原案どおり承認された。

### 第4号議案 昭和58年度予算の件

伏見理事より別紙昭和58年度予算書について説明があり、原案どおり承認された。

### 第5号議案 昭和58年度役員選任の件

定款第15条にしたがい、昭和58年度および59年度役員候補者が別紙のとおり発表され、満場一致で選任された。

### 第6号議案 名誉会員推薦の件

議長より理事会は、定款第6条にしたがい、名誉会員として松田武彦氏ならびに G. B. Dantzig 氏を推薦する旨計ったところ異議なく承認された。

以上で議案の審議を終了し、日本オペレーションズ・リサーチ学会賞の発表ならびに表彰に入った。

三根表彰委員長、小田部表彰副委員長、刀根文献賞小委員会委員長より各賞の選考経過の説明があり、会長より賞状・賞牌が下記のとおり授与された。

### 第8回 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞

1. 国澤清典
2. 日本電信電話公社

### 第7回 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞

1. 住友金属工業株式会社
2. 三菱石油株式会社

### 第3回 事例研究奨励賞

1. 安永通晴, 中元三郎, 小林智子
2. 柳井 浩
3. 石堂一成

引き続き、新フェローとして井上文左衛門、依田 浩、今川貞郎、御園生善尚の各氏が紹介され、会長よりフェロー記が贈呈された。

以上で総会の議事を終了し、議長は閉会を宣した。

上記議決を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名押印する。

昭和58年4月28日

社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
昭和58年度通常総会

議長 横山 勝義  
議事録署名人 今野 衛司  
" 刀根 薫

## 昭和57年度事業報告書

### I 事業の状況

#### 1. 研究発表会

- (1) 3月24日、25日の両日、名城大学において、第51回研究発表会を開催し、3月26日にはノリタケカンパニー、日立製作所旭工場を見学した。

特別テーマ オフィスオートメーションとOR

特別講演

- 1) オフィスオートメーションとOR  
唐津 一
2. 部品産業とOR  
北野多喜雄
- 発表件数
- |         |      |
|---------|------|
| 特別テーマ   | 16件  |
| 特別セッション | 12件  |
| 一般発表    | 87件  |
| 部会報告    | 12件  |
| 参加者数    | 314名 |
- (2) 9月16日, 17日の両日, 慶応義塾大学において  
第52回研究発表会を開催した.  
特別テーマ ORの実用

特別講演

- 1) OR如是我聞 刀根 薫
- 2) 数値的最適化法の最近の動向 田辺 国土
- 3) OR活用法について 茅野 健
- 発表件数
- |       |      |
|-------|------|
| 特別テーマ | 9件   |
| 一般発表  | 74件  |
| 参加者数  | 311名 |
2. シンポジウム  
9月18日, 慶応義塾大学において, 第10回シンポジウム「ORのマネジメント」を開催した. 参加者は70名であった.
3. 研究部会活動 (表1)

表1 研究部会終了, 中間報告

\*印は研究部会終了を示す

部会名	主幹 査事	メンバー	開催回数	内容	場所
*創造性開発の 数学モデルと コンピュータ ・ベイズド・ デザイン	池沢茂樹 (東洋信託銀行) 広内哲夫 (文教大)	13名	6回	まず, 創造性開発過程の数学モデルを作り, シミュレーションにより創造活動を支援するシステムを開発した. ここまでは「CDA」であるが, さらに直接コンピュータに創造させるシステムの開発を考えている.	湯島会館
*経営コンサル タント	上田亀之助 (上田イノベーション研) 樋爪 徹 (山之内製薬)	26名	12回	経営コンサルタントは, 複雑でしかも変転限らない現実社会のなかにおこってくる色々な問題の解決のお手伝いをするのがシゴトです. ですからいつもモノゴトの原理・原則とその応用的活用能力が必要です.	東京都勤労福祉会館
*政策問題	湊 晋平 (武田薬品) 細貝康夫 (三菱総研)	21名	9回	システム分析・PPBS・政策科学等の部会の後継者として昭和55年より3カ年経過した. この間, Y・ドロア博士講演会・部会特集号(昭和56年9月), 合意手法検討会・合宿研修数回を行なった. 今後は体制を改め整備し, 新発足を計りたい.	三菱総合研究所
*予測とその周 辺課題	西野吉次 (早稲田大) 浪平博人 (ブリヂストン タイヤ)	14名	11回	予測の新技术の関心と同じく, 実際の予測が現実の場でいかに使われ, その結果はいかにフォローされ行動が制御されたかに注目し, 事例の交換を行なった. 会合は月1回のペースで行ない, 発表事例21, 研究文献19を教えた. 文献については抄訳の形で整理中. 学会員の利用に供する予定.	早稲田大学システム科学研究所

部 会 名	主 幹 査 事	メンバー	開催回数	内 容	場 所
*交通問題	横山 勝義 (レールウェーシステム・リサーチ) 杉野 隆 (新日鉄)	26名	11回	交通体系のかかえる諸問題を、比較的 自由競争下にある物流を中心に幅広く 検討し、各輸送機関の特性、シェアの 実態、物流統計の問題点、輸送サー ビスとは何かについて研究した。各回検 討結果はレジュメとしてまとめた。	東洋経済ビル会 議室
*環境システム	有水 疆 (農林水産省) 小田中 敏男 (都立工科短大)	6名	10回	環境問題は80年代の課題である。その ためには第1に、生態学に対する深い 理解を示し、第2に、計画制御に対す る省察を深め、経営科学的接近の意義 を検討せねばならない。本研究部会は この方針にしたがって研究活動を展開 し、多くの成果を得た。	日本科学技術連 盟
*決定理論とそ の応用 (関西)	坂口 実 (大阪大) 栗栖 忠 (大阪大)	15名	9回	ゲームの理論、探索理論、機会解析の 理論、取り替え理論等の諸々の決定理 論とその応用に関する話題の中から最 新の研究成果が紹介され、活発な意見 の交換が行なわれた。	大阪大学基礎工 学部
*決定理論とそ の周辺 (九州)	児玉 正憲 (九州大) 岩本 誠一 (九州大)	15名	9回	(1)配分過程、最適停止ゲーム、最適選 択、確率計画法などの数理計画論、(2) 経営組織システム、利益計画、組み立 てシステムなどの最適化、(3)制御工学 の経済モデルへの応用、水資源の計量 分析、および(5)時系列データを含むデ ータベース管理システムの開発。	九州大学経済学 部
*混雑現象と待 ち行列	森村 英典 (東工大) 木村 俊一 (東工大)	29名	10回	広い意味での混雑現象を対象に、その 特徴やモデル化についての討議も行な ったが、具体的に成果の上がった研究 は、通信や計算機の網において起こる 諸問題や待ち行列の理論的研究に関す るものが多かった。	東京工業大学
*デンジョン・ サポート・シ ステム	松崎 功保 (日本IBM) 星 孝雄 (成蹊大)	21名	10回	初年度はDSSに関する文献の収集お よび発表・検討会を主としたが、次年 度からはコンピュータパッケージとし て世に出ているものについて紹介し合 い、使用体験談も混じえて検討を行な った。また、機会を見て海外のDSS 研究者を招いてディスカッションを行 なった。	成蹊大学工学部
未来分析	小島 光造 (小野事務所) 小岩 明 (社会環境シ ステム研)	35名	5回	社会科学の分野において当面の最大の 課題は将来の uncertainty に対するア プローチである。本部会では、そのメ ソドロジーのひとつとして問題を支配 する諸要因を原点から体系的に煮つめ ることによって演えき可能との観点に 立って研究を進めている。	東京都勤労福祉 会館

部 会 名	主 幹 査 事	メンバー	開催回数	内 容	場 所
確率モデルとその応用	小和田 正 (名工大) 澤木勝茂 (南山大)	9名	7回	現実の問題は必ずしもORの特定分野に包含されるものではなく、いろいろな分野にかかわりをもつシステムともいうべき様相を呈することが多い。本研究部会ではそれらの問題をひとつの確率モデルとして眺め、解析の手法を研究しようとするものである。	名古屋工業大学
数理計画法 (関東)	小島政和 (東工大) 福田公明 (東工大)	20名	8回	数理計画法の定式化・理論・応用およびアルゴリズムの提案、効率化(コードの開発を含む)等の研究を行なう。部会は原則として個々の研究者による最新の研究成果の報告の場とし、参加者との討議を通じて研究内容をさらに豊かにすることを目的とする。	統計数理研究所
数理計画法 (関西)	青沼龍雄 (神戸商大) 加藤直樹 (神戸商大)	19名	8回	数理計画法の各種技法の紹介、最新の研究成果の紹介、応用ならびに実践例の紹介を目的として活動している。その結果、数理計画法の一層の普及、ならびに研究交流、情報交換を進め得たと考えている。	京大会館 住友ビル 神戸市勤労会館
OR/MSとシステムマネジメント	山田善靖 (産能大) 根本忠明 (青山学院大)	27名	10回	OR/MSおよび情報システムから提供される情報を経営システムのマネジメントにうまく活用するための方法について研究することを目的としている。そのため、情報技術の特性と人間、組織の関係を心理学、行動科学、組織科学、システム科学の考え方にもとづいて分析する。	東京工業大学
ビジネスゲーム	村山乾一 (追手門学院大) 森 健一 (大阪府大)	33名	8回	今日まで多数のビジネスゲームを実際にプレーし、そして、そのひとつひとつを各方面の人々によって検討し、より効果的なビジネスゲームの開発に向かって協力し、衆知を集めつつある。ひとまず図書の出版を計画しているが、今後はもっと実際の経営計画に役立ち、環境変化を含めたゲーミング、シミュレーションの研究をめざしている。	中央電気クラブ
エネルギーモデル	小川 洋 (千葉工大) 小野勝章 (小野事務所)	18名	7回	エネルギー問題を、資源不足国の日本にとって将来の政策上避けて通ることのできない問題として考え、将来の政策立案に参考となり得るモデルの検討をめざしているが、既存モデルが乱立しているので焦点をしぼる必要性を感じている。	小野事務所

部 会 名	主 幹 査 事	メンバー	開催回数	内 容	場 所
リスク・マネジメント・システム	佐 伯 胖 (東京大) 小 岩 明 (社会環境システム研)	19名	8回	エネルギー問題を解決するための新しい政策目標の提示と新しい社会システムの形成のための Risk Auersion Support System の研究開発	社会環境システム研究所
第3世界とマイコン	森 口 繁 一 (東京電機大) 小田部 齊 (東亜燃料) 横 井 満 (工学院大)	16名	11回	人類3/4を占める第3世界の発展を主軸とする世界経済の繁栄のシナリオを描く。次にこのシナリオの実現のために、マイコンの果すべき役割を考え、社会に提言することを目的として研究活動を行なっている。	東亜燃料工業

#### 4. 普及活動

(1) 定例講演会 (表2)

表 2

開催年月	テ ー マ	講 師	参加人数	開催地区
57年 8月	事務スタッフ部門におけるQC	唐 津 一	110名	本 部
11月	人工知能の経営への応用	矢 矧 晴一郎	15名	〃
	OR年表余談	横 山 勝 義	31名	中 部
12月	実践的意思決定法のすすめ—PDPC手法—	近 藤 次 郎	41名	本 部
58年 2月	都市情報システム—日米の比較から— 兵庫県の地理的情報管理システム	秋 葉 博 宮 崎 秀 紀 高 室 晴 一	23名	関 西

#### (2) モニター制度

昭和55年度より、OR誌をはじめ研究発表会、シンポジウムその他学会活動に対する会員の要望を広く把握するため、モニター制度を運用している。今年度は第4期モニター(57年2月～6月)として21名、第5期モニター(57年7月～11月)として21名、第6期モニター(57年12月～58年5月)として21名の方々をお願いし、毎月アンケートに回答していただいた。また57年12月より、会員から毎月若干名を選び、その月のアンケートに答えてもらうようにした。さらに、研究発表会時にはモニター会議を開催し、各モニターから積極的、かつ建設的な意見を集めることができた。

#### (3) 第3回ORセミナー

例年好評を博している「意思決定のための会計情報講座」を、昭和57年11月17日～19日の3日間、伏見多美雄教授(慶大)の講義に福川忠昭講師(慶大)山口俊和助教授(理科大)のケーススタディを加えて行なった。参加者は28名であった。

#### 5. 刊行物

##### (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会機関誌

「オペレーションズ・リサーチ」Vol.27 No.3からVol.28 No.2まで12号(本文698ページ)を発行した。各号は特集を主とし、他にトップの視点、連載講座、事例研究、解説、フォーラム、書評、文献紹介、部会報告等を掲載した。特集のテーマは次のとおりであった。

Vol.27 No.3「OAとOR」、同No.4「データベースの現状と利用」、同No.5「社会情報システム」、同No.6「数理計画の応用」、同No.7「化学とOR」、同No.8「確率システム」、同No.9「ロボット」、同No.10「プレゼンテーションのOR」、同No.11「都市問題のOR」、同No.12「信頼性とOR」、[Vol.28 No.1「ORのはじまり」、同No.2「鉄鋼のOR」。

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌 (Journal of the Operations Research Society of Japan) Vol.25 No.1からNo.4の4号(408ページ)を発行した。本年度の投稿論文は89編(再投稿33編を含む)で掲載論文は27編であった。

##### (3) 研究発表会アブストラクト集

春・秋研究発表会のアブストラクト集を発行し

た。

(4) 報文集

「ネットワーク構造を有するオペレーションズ  
・リサーチ問題の電算機処理に関する基礎研究」  
(T-73-1) の第2刷を発行した。

6. 国際協力

IFORS が発行する IAOR (International

Abstracts in Operations Research) 誌の編集  
発行に協力し、日本の文献抄録55編を送付すると  
ともに、IAOR 誌の Vol. 24 No. 1~3, Vol. 25  
No. 1~3の国内頒布に協力した。

7. 支部活動

各支部ごとに表3のとおり活動した。

表3 支部活動報告書

	北海道	東北	中部	関西	中国・四国	九州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 6回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 1回	支部総会 1回 運営委員会 2回 幹事会 8回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 2回	支部総会 1回 運営委員会 2回
研究会		3回	6回	•数理計画法 8回 •決定理論とその 応用 8回 •応用確率論 3回 •経営科学文献情 報検索 20回	1回	4回
講演会	•主催 1回 •共催 2回	1回	1回 •定例講演会 1回	4回	1回	2回
出版			•支部ニュース11回 •支部20年のあゆみ •支部会員名簿			•支部ニュース 8回
その他	•研究発表会 2回 •企業への普及 活動 1回	•見学会 1回 •懇親会 1回	•見学会 1回 •懇親会 1回 •支部創立20周年 記念パーティー	•支部大会 1回	•春季研究発表 会実行委員会 5回	•見学会 1回

8. 表彰

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞  
第10回日本オペレーションズ・リサーチ学会文  
献賞を下記に対して授与した。

• Feasibility-improving-gradient-acute-  
projection methods : A unified ap-  
proach to nonlinear programming  
THE NEWTON METHOD AND  
RELATED TOPICS Vol. 3

• A geometric method in nonlinear pro-  
gramming

J. Optim. Theory Appl. Vol. 30

田辺国土 (統計数理研究所)

第11回日本オペレーションズ・リサーチ学会文  
献賞の選考を行なったが該当論文はなかった。

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞  
第7回日本オペレーションズ・リサーチ学会普

及賞を下記に対して授与した。

• 日本アイ・ビー・エム株式会社

第8回日本オペレーションズ・リサーチ学会普  
及賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。

• 国沢清典 (東京理科大学)

• 日本電信電話公社

(3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞  
第6回日本オペレーションズ・リサーチ学会実  
施賞を下記に対して授与した。

• 財団法人 電力中央研究所

第7回日本オペレーションズ・リサーチ学会実  
施賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。

• 住友金属工業株式会社

• 三菱石油株式会社

(4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究  
奨励賞

第2回日本オペレーションズ・リサーチ学会事

例研究奨励賞を下記に対して授与した。

• 立体自動倉庫の計画・設計手法について  
オペレーションズ・リサーチVol.26 No.3  
矢野禎一・天海清志(株式会社竹中工務店)  
第3回日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。

• 逆日影問題  
一日影規制を考慮した最適建設可能領域の決定—

オペレーションズ・リサーチVol.27 No.6  
安永通晴\*・中元三郎\*・小林智子\*  
(日本情報サービス株式会社\*・株式会社安井建築設計事務所\*\*)

• バルクライン方式下における価格競争と薬価基準の推移

Journal of the Operations Research Society of Japan Vol.25 No.3

柳井 浩 (慶応義塾大学)

• 「目で見る計画」の手法—GERTの実用化  
日本オペレーションズ・リサーチ学会

1982年度秋季研究発表会アブストラクト集  
石堂一成 (三菱重工業株式会社)

## 9. 受賞助成金推薦

昭和57年度研究助成候補者として下記のとおり推薦した。

### (1) 鹿島学術振興財団

• 林 喜男(代表), 安達 直, 近藤東郎,  
今宮俊一郎

「都市化過程における人間—生活様式—環境系の生態学的評価と予測」

## 10. 研究調査受託

テーマ「薬価基準新算定方式(いわゆる81%バルクライン方式)導入が下記に与える影響について

- (1) 医療機関に与える影響
- (2) 産業界に与える影響
- (3) 国民に与える影響

依頼者 社団法人日本薬剤師会 受託金額20万円  
上記のテーマについて委員会(委員長 柳井 浩)を設け研究を行ない、報告書ならびに資料をとりまとめ提出した。

## 11. 他学協会との交流

他学協会の開催した講習会等に協賛、後援した。

- (1) オフィスシステムセミナー
- (2) 第2回シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス

- (3) 第8回システムシンポジウム
- (4) 国際人間工学会連合第8回会議
- (5) FMSセミナー
- (6) 第3回数理計画シンポジウム
- (7) システムと制御チュートリアル講座
- (8) コンピュータ・グラフィックスとCAD講習会
- (9) 第25回自動制御連合講演会
- (10) 分散形制御システムの実習付講習会
- (11) 第6回ビークル・オートメーション・シンポジウム
- (12) 第33回自動制御講習会

## 12. 創立25周年記念事業

### (1) OR学会史年表の編集

OR学会史委員会(横山勝義委員長)は、わがOR学会の創立以来25年間のあゆみ、OR活動の歴史、OR手法の進歩などをひと目でみることができる「OR年表」を作成した。

### (2) 記念出版事業

記念出版委員会(原野秀永委員長)は、大西記念文献賞およびOR学会文献賞の受賞論文14編と受賞者による座談会記事を掲載し刊行した。

### (3) 長期計画の策定

長期計画委員会(松田武彦委員長)は、委員会の討議に会員のアンケート調査、モニターの意見さらに学識経験者や実務家のインタビューの結果を加え「OR学会の進むべき方向」と題する報告書をまとめた。

### (4) 創立25周年記念式典

記念式典を昭和57年9月16日(木) 慶応義塾大学理工学部において開催し、引続き祝賀懇親会が行なわれた。

名誉会員、フェロー、賛助会員の招待者、会員の参加者には記念事業の成果が配布された。

## II 処務の概要

### 1. 役員に関する事項

#### 理事

定数：12人から16人

任期：2年

#### 非常勤

現在：16人

#### 監事

定数：2人

任期：2年

#### 非常勤

現在：2人

理事・監事の役職	氏名	常勤非常勤の別	就任		担当職務	職名	備考
			就任年月日	登記年月日			
理事(会長)	横山 勝義	非常勤	57.4.27	57.7.30	会務の総理	川崎重工業務顧問	
"(副会長)	本告 光男	"	56.5.15	56.7.9	企画調整	中部電力輸支配人	
"	渡辺 浩	"	"	"	"	筑波大学教授	
"	三根 久	"	57.4.27	57.7.30	"	京都大学教授	
"	川野幸三郎	"	56.5.15	56.7.9	庶務	東燃石油化学輸生産技術部副部長	
"	今野 衛司	"	57.4.27	57.7.30	"	日本アイ・ビー・エム輸	
"	若山 邦紘	"	"	"	"	法政大学助教授	
"	高森 寛	"	56.5.15	56.7.9	国際	青山学院大学教授	
"	古林 隆	"	"	"	研究普及	埼玉大学助教授	
"	平本 巖	"	57.4.27	57.7.30	"	輸電力計算センター技術部長	
"	小林 龍一	"	56.5.15	56.7.9	編集	立教大学教授	
"	刀根 薫	"	57.4.27	57.7.30	"	埼玉大学教授	
"	伏見多美雄	"	"	"	会計	慶応義塾大学教授	
"	飯原 慶雄	"	56.5.15	56.7.9	無任所	南山大学教授	
"	飯田 徳雄	"	57.4.27	57.7.30	"	日本電信電話公社計画局調査役	
"	権藤 元	"	"	"	"	中国電力輸総合機械化センター所長	
監事	宮川 公男	"	56.5.15	56.7.9	民法59条	一橋大学教授	
"	阿部 統	"	57.4.27	57.7.30	"	東京工業大学教授	

## 2. 職員に関する事項

区分	専任者・有給者	
	人数	左の人数の基本給年度末月額
事務職員	3人	491,000
計	3人	491,000

## 3. 会議に関する事項

### (1) 通常総会

開催年月日	議事事項	結果
57.4.27	1. 昭和56年度事業報告の件	承認
	2. 昭和56年度決算報告の件	承認
	3. 監査報告の件	承認
	4. 昭和57年度事業計画の件	承認
	5. 昭和57年度予算の件	承認
	6. 昭和57年度役員選任の件	承認
	7. 昭和57年度評議員選任の件	承認
	8. 昭和56年度学会賞の発表と表彰	
	9. 新フェロー紹介	

### (2) 理事会

開催年月日	議事事項	結果
57.5.12	1. 昭和57年度通常総会議事録確認の件	承認
	2. 各委員会委員・幹事委嘱の件	承認

3. 表彰委員長指名の件 承認

4. 昭和57年度春季研究発表会決算報告の件(中部支部扱いのみ) 承認

5. 今年度の方針など懇談

57.7.9 1. 会友制度について 継続審議

2. 昭和57年度第1四半期収支計算報告 承認

3. 表彰委員会委員の委嘱について 承認

4. 研究普及委員会規程の一部改訂(案) 継続審議

5. 昭和57年度春季研究発表会報告

6. 昭和57年度秋季研究発表会並びにシンポジウムの準備状況について報告

7. 創立25周年記念式典・祝賀会について

8. 創立25周年記念事業の状況報告

- ・長期計画
- ・記念出版



	• OR史		支計算報告	承認
57.9.6	1. 役員登記完了, 文部省へ報告届出完了報告		10. 昭和58年度事業計画案並びに予算案の審議	次回再検討
	2. 各支部総会報告	承認	11. 名誉会員推薦の件	承認
	3. 会友制度について	承認	12. 昭和58年度通常総会の日時・会場の件	
	4. 名誉会員推薦の件	承認		
	5. 創立25周年記念事業の成果報告		58.3.24 1. 研究部会の継続並びに終了報告	承認
	6. 秋季研究発表会の準備状況報告		2. OR学会賞推薦の件	承認
	7. 昭和58年度春季研究発表会の件	承認	3. 学会活動スタッフの強化について	
	8. 第3回ORセミナー開催の件	承認	4. 昭和57年度事業報告案の件	一部修正
	9. 研究普及委員会規程改訂の件	承認	5. 昭和57年度決算報告案の件	承認
57.11.5	1. 支部長会議開催報告		6. 昭和58年度事業計画案の件	承認
	2. 創立25周年記念事業終了報告	承認	7. 昭和58年度予算案の件	承認
	3. 長期計画実施具体策の検討		8. 昭和58年度役員の件	承認
	4. 昭和57年度上半期収支計算報告	承認	58.4.12 1. 昭和58年度総会議案の件	
	5. 秋季研究発表会終了報告	承認	(1) 昭和57年度事業報告書	承認
	6. 第10回シンポジウム終了報告	承認	(2) 昭和57年度決算報告書	承認
	7. 研究受託の件	承認	(3) 監査報告	承認
	8. 昭和58年度事業計画案並びに予算案の作成について各委員会, 幹事会へ依頼		(4) 昭和58年度事業計画書(案)	承認
58.1.21	1. 研究部会の新設並びに継続承認の件	承認	(5) 昭和58年度予算書(案)	承認
	2. 昭和58年度春季研究発表会の予算案の件	承認	(6) 昭和58年度役員候補者の件	承認
	3. 第3回ORセミナーの報告	承認	2. フェロー推薦の件	承認
	4. 第10回国際OR会議開催地変更の件		(3) 評議員会	
	5. 第10回国際OR会議日本代表論文選出の件		開催年月日	議事事項
	6. 学生論文賞新設の件	承認	58.4.12	1. 昭和58年度総会議案の件
	7. 公的問題対策委員会設置の件	承認		(1) 昭和57年度事業報告書
	8. OR事例集刊行に関する件	承認		(2) 昭和57年度決算報告書
	9. 昭和57年度第3四半期収	承認		(3) 監査報告
				(4) 昭和58年度事業計画書(案)
				(5) 昭和58年度予算書(案)
				(6) 昭和58年度役員候補者の件
				承認
			4. 支部長会議	
			支部長会議は3月(名古屋)と9月(横浜)の2回開催し, OR学会の諸問題について意見が交換され, 本部と支部の意見調整が計られた。	
			5. 委員会・幹事会等	
			(1) 常設委員会	

編集委員会 15回	研究普及委員会 6回	モニター会議 2回	OR事例集編集委員会 1回
IAOR委員会 9回	表彰委員会 4回	広告委員会 1回	研究部
(2) その他の委員会・幹事会等		会主査会議 1回	セミナー委員会 2回
25周年記念事業委員会 20回	モニター委員会 12回	フェロー会議 1回	庶務幹事会 10回
公的問題対策委員会 2回		会計幹事会 8回	座談会 2回

## 6. 会員状況

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	計
1982年2月末日	4	1,975	127	109	2,215
1982年度 入会		123	42	4	169
1982年度 移行	学→正	49	-49		
	正→学	-1	1		
1982年度 退会		-72	-8	-5	-85
1982年度 除名		-25	-2		-27
1983年2月末日	4	2,049	111	108	2,272

	名誉会員	正会員	学生学員	賛助会員
本部	3	1,276	85	67
北海道		58	0	4
東北		64	1	5
中部	1	170	4	10
関西		291	14	12
中国・四国		123	5	7
九州		67	2	3
合計	4	2,049	111	108

## 昭和58年度新役員候補者並びに継続役員名簿

会務役職	定数	候補者	非改選役員	会務役職	定数	候補者	非改選役員
会長	1(0)		横山 勝義	研普及	2(1)	今野 浩	平本 巖
副会長	3(2)	佐久間 孝 森村 英典	三根 久	編集	2(1)	牧野 都治	刀根 薫
庶務	3(1)	渡辺 忠	今野 衛司 若山 邦紘	会計	1(0)		伏見 多美雄
国際	1(1)	横井 満		無任所	3(1)	関口 恭毅	飯田 徳雄 権藤 元
				監事	2(1)	八巻 直躬	阿部 統

( ) は58年度改選数

## 昭和57年度収支決算報告書

### 1. 資産の部

貸借対照表 (昭和58年2月28日)

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動資産	現金預金	51,099,333	
	未収金	2,870,610	
	前払金	174,983	
流動資産合計			54,144,926
有形固定資産	什器備品	71,680	
有形固定資産合計			71,680
資産合計			54,216,606

### 2. 負債の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動負債	預り金	226,063	
	未払金	400,000	
	前受金	22,322,404	
流動負債合計			22,948,467
固定負債	退職給与引当金	7,339,763	
	敷金引当金	1,475,640	
	名簿作成引当金	1,000,000	
	国際協力引当金	3,654,792	
	記念事業引当金	1,000,000	
	表彰事業引当金	200,000	
	別途引当金	3,029,466	
固定負債合計			17,699,661
負債合計			40,648,128

### 3. 正味財産の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
基本金	基本金		5,000,000
剰余金	次期繰越収支差額	8,568,478	
	(うち当期増加額)	(3,320,887)	
剰余金合計			8,568,478
正味財産合計			13,568,478
負債及び正味財産合計			54,216,606

財産目録 (昭和58年2月28日)

	金	額
(資産の部)		
I 流動資産		
1. 現金預金		
(1) 現金		
現金手許有高	183,963	
(2) 振替貯金		
東京地方貯金局	4,838,301	
(3) 当座預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	5,099,816	
住友銀行白山支店	3,045,325	
(4) 普通預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	5,147,891	
住友銀行白山支店	1,129,245	
(5) 定期預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	18,000,000	
住友銀行白山支店	13,654,792	
2. 未収金		
57年度会費外	2,870,610	
3. 前払金		
抜刷代金外	174,983	54,144,926
II 有形固定資産		
1. 什器備品		
複写機外		71,680
資 産 合 計		54,216,606
(負債の部)		
I 流動負債		
1. 預り金		
職員に対する源泉所得税外	226,063	
2. 未払金		
給料手当	400,000	
3. 前受金		
主として58年度会費前受金	22,322,404	22,948,467
II 固定負債		
1. 退職給与引当金	7,339,763	
2. 敷金引当金	1,475,640	
3. 名簿作成引当金	1,000,000	
4. 国際協力引当金	3,654,792	
5. 記念事業引当金	1,000,000	
6. 表彰事業引当金	200,000	
7. 別途引当金	3,029,466	17,699,661
負 債 合 計		40,648,128
正 味 財 産		13,568,478

注：基本財産たる資産 定期預金（第一勧業銀行八重洲口支店） 5,000,000

収支計算書 (昭和57年3月1日から昭和58年2月28日まで)

収支決算の部

1) 収入の部

勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	小科目				
基本財産運用収入	基本財産利息収入		287,500	287,500	0	
事業収入	会誌頒布収入		12,588,900	11,744,691	844,209	
	研究発表会収入		3,445,000	3,327,500	117,500	
	講演会収入		280,500	288,000	△ 7,500	
	講習会収入		1,350,000	1,280,000	70,000	
	資料等頒布収入		300,000	346,900	△ 46,900	
	I A O R 収入		452,600	421,600	31,000	
	E J O R 収入		84,000	84,000	0	
	研究調査収入		0	200,000	△ 200,000	
入会金収入	正会員入会金収入		180,000	147,400	32,600	
	学生会員入会金収入		42,000	25,200	16,800	
会費収入	正会員会費収入		24,720,000	24,692,795	27,205	
	学生会員会費収入		1,000,000	835,000	165,000	
	賛助会員会費収入		12,350,000	11,777,500	572,500	
引当金取崩収入	記念事業引当金取崩収入		1,242,560	1,242,560	0	
	名簿作成引当金取崩収入		1,000,000	1,000,000	0	
	退職手当引当金取崩収入		0	150,572	△ 150,572	
雑収入	広告収入		2,380,000	2,547,480	△ 167,480	
	受取利息		1,700,000	2,027,533	△ 327,533	
	名簿収入		900,000	439,500	460,500	
	雑収入		100,000	436,339	△ 336,339	
前期繰越収支差額			5,247,591	5,247,591	0	
収入合計			69,650,651	68,549,661	1,100,990	

2) 支出の部

勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	小科目				
管理費	家賃		2,140,800	2,124,000	16,800	
	共益費		768,000	768,000	0	
	什器備品費		50,000	54,300	△ 4,300	
	会議費		700,000	450,352	249,648	
	旅費交通費		1,904,000	1,239,400	664,600	
	通信費		1,260,000	863,413	396,587	
	印刷費		600,000	279,780	320,220	
	消耗品費		600,000	544,057	55,943	
	修繕費		20,000	13,300	6,700	

	給料手当	6,090,000	5,790,134	299,866
	福利厚生費	1,234,700	1,277,278	△ 42,578
	臨時雇賃金	600,000	711,600	△ 111,600
	保険料	37,000	48,600	△ 11,600
	負担金	40,000	30,900	9,100
	支払手数料	110,000	111,210	△ 1,210
	租税公課	20,000	15,000	5,000
	退職金	0	150,572	△ 150,572
	退職給与引当金繰入額	1,000,000	1,000,000	0
	敷金引当金繰入額	165,000	165,000	0
	備品償却費	200,000	200,000	0
	雑費	150,000	118,054	31,946
	会費徴収不能	0	1,082,200	△ 1,082,200
事業費	研究発表会費			
	開催費	1,475,000	1,870,980	△ 395,980
	印刷費	1,250,000	969,800	280,200
	印刷製本費			
	機関誌	13,200,000	12,379,770	820,230
	論文誌	2,000,000	1,905,844	94,156
	報文集	200,000	170,000	30,000
	印刷費	150,000	151,700	△ 1,700
	国際協力費			
	IFORS会費	250,000	270,452	△ 20,452
	IAOR購入費	259,200	303,750	△ 44,550
	EJOR購入費	83,160	86,625	△ 3,465
	研究活動費			
	講演会開催費	215,000	125,300	89,700
	講習会開催費	1,040,000	871,960	168,040
	研究部会費	950,000	950,000	0
	支部費	2,208,000	2,208,000	0
	調査費	0	200,000	△ 200,000
	表彰事業費	250,000	166,071	83,929
	記念事業費	3,500,000	2,997,430	502,570
	会議費	670,000	515,505	154,495
	旅費交通費	1,147,000	858,000	289,000
	通信運搬費	3,464,000	3,280,999	183,001
	諸謝金	1,970,000	1,527,600	442,400
	給料手当	6,090,000	5,790,134	299,866
	編集校正費	1,560,000	1,500,000	60,000
	消耗品費	718,000	757,634	△ 39,634
	名簿作成費	1,000,000	969,500	30,500
	表彰事業引当金繰入額	100,000	100,000	0
	記念事業引当金繰入額	0	1,000,000	△ 1,000,000
	名簿作成引当金繰入額	0	1,000,000	△ 1,000,000
	雑費	120,000	16,979	103,021
予備費		1,000,000	0	1,000,000
次期繰越収支差額		7,091,791	8,568,478	△ 1,476,687
支出合計		69,650,651	68,549,661	1,100,990

## 昭和58年度事業計画書

ORは「実学の精神にのっとり、現実にもとづいて問題をとりあげ、これを解決するための理論を構築し、手法を開発すること」をめざすものである。

世界的な経済不況のもとに、企業は一層緻密な経営を画るために、ORの活用が不可欠となってきた。この時期に当り、創立25周年を記念して策定された長期計画の実現に向かって第1歩を踏み出す年としたい。

### 1. 研究発表会、シンポジウム

- (1) 研究発表会は、春秋2回開催し、春季は3月28日、29日に広島大学において、秋季は10月26日、27日に工学院大学において開催する。

見学会は、3月30日、10月28日にそれぞれ研究発表会とあわせて行なう。

特別テーマは、春季は「実践的OR—生産性向上をめざして—」、秋季は「交通とコミュニケーション」とする。

- (2) シンポジウムは、10月25日工学院大学において行なう。

テーマは「交通とコミュニケーション」とする。

### 2. 通常総会

通常総会は4月28日東京において行なう。

### 3. 研究部会活動

研究部会活動は「未来分析」,「確率モデルとその応用」,「数理計画法(関東)」,「数理計画法(関西)」,「OR/MSとシステム・マネジメント」,「ビジネスゲーム」,「エネルギーモデル」,「リスク・マネジメント・システム」,「第3世界とマイコン」の既設9部会の活動を引続き推進するとともに、新たに「数理計画(九州):主査 古川長太(九州大学)」,「信頼性・保全性:主査 阿部俊一(青山学院大学)」,「待ち行列システム:主査 橋田 温(電々公社研究開発本部)」,「現場のOR教育:主査 榎本久徳(中部電力)」,「意思決定のための会計情報:主査 伏見多美雄(慶応義塾大学)」がその活動を開始する。

### 4. 普及活動

第4回ORセミナーを企画実施する。定例講演会、座談会、学会活動の広報等のOR普及活動に努める。またOR誌をはじめ、OR普及活動について広く意見を求めるためのモニター制度を継続する。

- (1) 刊行物「機関誌オペレーションズ・リサーチ」を12号、論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」(日本オペレー

ションズ・リサーチ学会論文誌)を4号発行する。

- (2) 研究発表会アブストラクト集を2回発行する。
- (3) 報文集T-83-1「地理的情報の処理に関する基本アルゴリズム」を発行する。

### 6. 国際協力

- (1) IFORS(国際OR学会連合)を通じて各国の学会と協力する。
- (2) 第10回OR国際会議(1984年8月6日~10日ワシントンで開催)参加および視察団派遣の準備を行なう。
- (3) 国内のOR文献抄録の作成を通じIAOR誌の発行に協力するとともにIAOR誌の国内頒布を行なう。

### 7. 支部活動

各支部において研究会、講習会、見学会等の活動を行なう。

### 8. 表彰

文献賞、実施賞、普及賞並びに事例研究奨励賞の昭和58年度選考を行なう。新たに今年度より学生論文賞を設け選考並びに授賞を行なう。

### 9. 受賞、助成金推薦

他学協会等の依頼に応じ推薦に協力する。

### 10. 他学協会との交流

他学協会との交流を積極的に進める。

### 11. 長期計画の推進

昭和57年に、25周年を契機として長期計画委員会により策定された長期計画(5年)にもとづき、以下の事業を推進する。

- (1) 公的地位の強化

公的問題対策委員会(横山勝義委員長)は、学術分野における本学会の公的地位の強化と関連学協会との連繫緊密化を実現するための具体的施策を検討し、順次実施に入る。

- (2) OR事例集の刊行

OR事例集編集委員会(森村英典委員長)は、昭和50年に出版されたOR事典増補の一環として昭和58年11月発行を目途に、OR事例を刊行する。

- (3) 学会諸活動の充実

上記委員会による活動に加え、各委員会・幹事会は、長期計画を指針として活動の充実をはかる。

## 昭和58年度予算書

### 収入支出の予算

(昭和58年3月1日から昭和59年2月29日まで)

#### 1) 収入の部

勘 定 科 目			予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
基本財産運用収入	基本財産利息収入		287,500	287,500	0	
事業収入	会誌頒布収入		11,412,300	12,588,900	△ 1,176,600	
	研究発表会収入		3,155,000	3,445,000	△ 290,000	
	講演会収入		282,500	280,500	2,000	
	講習会収入		1,350,000	1,350,000	0	
	資料等頒布収入		300,000	300,000	0	
	I A O R 収入		527,000	452,600	74,400	
	E J O R 収入		70,000	84,000	△ 14,000	
入会金収入	正会員入会金収入		180,000	180,000	0	
	学生会員入会金収入		42,000	42,000	0	
会費収入	正会員会費収入		26,024,000	24,720,000	1,304,000	
	学生会員会費収入		925,000	1,000,000	△ 75,000	
	賛助会員会費収入		12,635,000	12,350,000	285,000	
引当金取崩収入	記念事業引当金取崩収入		0	1,242,560	△ 1,242,560	
	名簿作成引当金取崩収入		0	1,000,000	△ 1,000,000	
雑収入	広告収入		2,380,000	2,380,000	0	
	受取利息		1,780,000	1,700,000	80,000	
	名簿収入		150,000	900,000	△ 750,000	
	雑収入		100,000	100,000	0	
	寄附金収入		800,000	0	800,000	
前期繰越収支差額			8,568,478	5,247,591	3,320,887	
収 入 合 計			70,968,778	69,650,651	1,318,127	

#### 2) 支出の部

勘 定 科 目			予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
管 理 費	家 賃		2,124,000	2,140,800	△ 16,800	
	共 益	費	768,000	768,000	0	
	什 器	備 品 費	50,000	50,000	0	
	会 議	費	856,000	700,000	156,000	
	旅 費	交 通 費	1,950,000	1,904,000	46,000	
	通 信	費	1,220,000	1,260,000	△ 40,000	
	印 刷	費	427,000	600,000	△ 173,000	



事業費	消耗品費	570,000	600,000	△ 30,000	
	修繕費	20,000	20,000	0	
	給料手当	7,575,000	6,090,000	1,485,000	
	福利厚生費	1,320,000	1,234,700	85,300	
	臨時雇賃金	820,000	600,000	220,000	
	保険料	48,000	37,000	11,600	
	負担金	32,000	40,000	△ 8,000	
	支払手数料	110,000	110,000	0	
	租税公課	15,000	20,000	△ 5,000	
	退職手当引当金繰入額	1,000,000	1,000,000	0	
	敷金引当金繰入額	165,000	165,000	0	
	備品償却費	71,680	200,000	△ 128,320	
	雑費	150,000	150,000	0	
	研究発表会費				
		開催費	2,015,000	1,475,000	540,000
		印刷費	990,000	1,250,000	△ 260,000
	印刷製本費				
		機関誌	13,200,000	13,200,000	0
		論文誌	2,000,000	2,000,000	0
		報文集	200,000	200,000	0
		印刷費	150,000	150,000	0
	国際協力費				
		IFORS会費	275,000	250,000	25,000
		IAOR購入費	327,600	259,200	68,400
		EJOR購入費	70,000	83,160	△ 13,160
	研究活動費				
		講演会開催費	480,000	215,000	265,000
		講習会開催費	960,000	1,040,000	△ 80,000
		研究部会費	700,000	950,000	△ 250,000
	支部費	2,275,000	2,208,000	67,000	
		800,000	0	800,000	
OR事例集刊行費					
	表彰事業費	463,000	250,000	213,000	
会費					
	交通費	750,000	670,000	80,000	
旅費					
	通信搬送費	1,298,500	1,147,000	151,500	
通信費					
	諸謝金	3,360,000	3,464,000	△ 104,000	
諸謝金					
	給料手当	1,990,000	1,970,000	20,000	
給料手当					
	編集校正費	7,575,000	6,090,000	1,485,000	
編集校正費					
	消耗品費	1,560,000	1,560,000	0	
消耗品費					
	簿作成費	700,000	718,000	△ 18,000	
簿作成費					
	記念事業費	0	1,000,000	△ 1,000,000	
記念事業費					
	表彰事業引当金繰入額	0	3,500,000	△ 3,500,000	
表彰事業引当金繰入額					
	記念事業引当金繰入額	200,000	100,000	100,000	
記念事業引当金繰入額					
	雑費	500,000	0	500,000	
雑費					
		100,000	120,000	△ 20,000	
予備費					
		1,000,000	1,000,000	0	
次期繰越収支差額					
		7,237,398	7,091,791	145,607	
支出合計		70,468,778	69,650,651	818,127	